

建築研究 No.147「超高層建築物等への長周期地震動の影響に関する検討」の第 2 章「2-2 任意地点での長周期地震動の計算方法の検討」において、関東平野(1 都 6 県)、濃尾平野、大阪平野を対象として、加速度応答スペクトルの地盤増幅率と群遅延時間の平均値・標準偏差のサイト係数の面的評価のための回帰式を検討・作成している。その際に使用した地下構造モデルを、地震調査研究推進本部が公開している 2009 年版から 2012 年版へ更新したので、それに伴って生じた係数などの変更点を反映させた。併せて、間違い等が確認されている箇所を修正した。変更点、修正点は、以下の通りである。更新した「2-2」の頁には、右肩に(地震調査研究推進本部 2012 の 3 次元地下構造モデルに対応)と記載して区別している。

地下構造モデルの 2009 年版から 2012 年版への更新に伴う変更点に関する正誤表

No.	頁	行等 (L は行数*1)	正(修正版)	誤(旧版)
1	2-3	L6	三次元地下構造モデルの西日本用(地震本部 2012)を用いて	三次元地下構造モデルを用いて
2	2-3	L17	地震本部 (2009,2012)	地震本部 (2009)
3	2-3	L20	地震本部 (2009,2012)	地震本部 (2009)
4	2-5	L3	$T_z2.9 \geq 1.2$ 秒の	$T_z2.9 \geq 0.7$ 秒の
5	2-5	L7	$T_z \geq 1.2$ の場合に+0.3 秒して	$T_z \geq 0.7$ の場合に+0.6 秒して
6	2-5	L11	$T_z2.9$ を+0.3 秒して	$T_z2.9$ を+0.6 秒にして
7	2-5	L13	…は含めないことにした。さらに、兵庫県の…含めないことにした。	…は含めないことにした。
8	2-5	L21	$T_z2.9$ を+0.3 秒としたが	$T_z2.9$ を+0.6 秒としたが
9	2-5	L22	$T_z2.9$ を+0.3 秒とした。	$T_z2.9$ を+0.6 秒とした。
10	2-5	L32	また、 $T_z3.2$ が 3.35 秒以上では、…	また、 $T_z3.2$ が 3.5 秒以上では、…
11	2-5	L33	… $T_z3.2 \leq 3.35$ 秒を回帰のデータとし、 $T_z3.2 \geq 3.35$ 秒では…	… $T_z3.2 \leq 3.5$ 秒を回帰のデータとし、 $T_z3.2 \geq 3.5$ 秒では…
12	2-5	L35	津島における 1.65 秒、此花における 2.93 秒	津島における 1.58 秒、此花における 2.52 秒
13	2-6	L29	3.35 秒以上、1.65 秒以上、2.93 秒以上で	3.5 秒以上、1.58 秒以上、2.52 秒以上で
14	2-8	L5	地震本部(2012)	地震本部(2009)
15	2-9	図 2.2-1	地震本部(2012)	地震本部(2009)
16	2-18	図 2.2-10、(c)	$T_z2.9$ に+0.3 秒を加えて	$T_z2.9$ に+0.6 秒を加えて

\*1) : 行数は、修正版での行数

確認されている間違い等に関する正誤表

No.	頁	行等 (Lは行数*1)	正	誤
1	2-3	L3	平成 23 年度に	23 年度
2	2-5	L1	…は大きくない。旧経験式の場合と…	…は大きくない。これは、三次元地下構造…と推測される。そこで、旧経験式の場合と…
3	2-18	図 2.2-10、(a)	$Tz2.9$ 分布	$Tz3.2$ 分布
3	2-18	図 2.2-10、(b)	矩形領域の $Tz2.9$ 分布と	矩形領域の $Tz3.2$ 分布と
4	2-20	図 2.2-12	補正後の $Tz2.9$ と	補正後の $Tz3.2$ と
5	2-35	図 2.2-27	濃尾平野の観測点の元データの $Tz3.2$ と群遅延時間の標準偏差の	濃尾平野の観測点の元データの $Tz3.2$ と群遅延時間の平均値の
6	2-47	図 2.2-40	群遅延時間の標準偏差の…群遅延時間の標準偏差の	群遅延時間の平均値の…群遅延時間の平均値の
7	2-48	図 2.2-42	群遅延時間の標準偏差の…群遅延時間の標準偏差の	群遅延時間の平均値の…群遅延時間の平均値の

\*1) : 行数は、修正版での行数